

75年前の「新聞の父」伝記58冊

播磨町出身の ジョセフ・ヒコ



ジョセフ・ヒコ

ヒコは1850年、遠州灘沖で遭難し、船で漂流中に米国船に救助されて渡米。59年に帰国した。この間、資産家の援助を受けて学校に通って見識を広め、

今回見つかった本は、神戸新聞社がジョセフ・ヒコの顕彰団体から伝記編集の依頼を受けて製作。同社と同団体が発行した。少年時

平易な文章特徴 「子ども向けに活用」

日本初の民間邦字新聞を発行し「新聞の父」として知られる播磨町出身のジョセフ・ヒコ(浜田彦蔵、1837〜97年)を顕彰し、1949年に刊行された本58冊が同町郷土資料館(大中1)の収蔵庫で見つかった。タイトルは「新聞の父 アメリカ彦蔵物語」。ヒコの生涯を分かりやすい文章でつづっており、同資料館は「郷土学習など子どもたちに故郷の偉人を知ってもらうために生かしたい」と活用法を検討している。(増井哲夫)

町郷土資料館の収蔵庫で発見



- ①「新聞の父 アメリカ彦蔵物語」の挿絵。登場人物の特徴を捉えた版画に歴史を感じる
- ②ジョセフ・ヒコ顕彰の一環で1949年に発行された「新聞の父 アメリカ彦蔵物語」

ジョセフ・ヒコについてまとめた下の文の空欄に、本文中から適切な言葉を抜き出して入れましょう。ただし、ADEは漢字3文字、Bは数字、Cは漢字2文字

ヒコは(A)出身。(B)歳の時、遠州灘沖で遭難し渡米。アメリカでは(C)に通い、(D)に面会した。帰国後(E)を発刊し、新聞の父と呼ばれた。

A
B
C
D
E

NI Eワークシート小高～高校



播磨町郷土資料館で大量に見つかったジョセフ・ヒコ顕彰冊子。内容について意見を交わす水野洋子館長(左)と学芸員の大川康裕(右)。

代、太平洋漂流、渡米、帰国、新聞発行などヒコの生涯を10章約80頁にわたり紹介している。はしがきには「ヒコの偉業と人となりを知りたい」ために、つづめてわかりやすく、物語りふうにかいた」と記されている。

同資料館は2023年度から3カ年計画で収蔵庫の整理事業に取り組み、考古品や民俗資料、古い書物、古文書など収蔵庫に保管すべき物とそうでない物の分類作業を始めた。

23年10月下旬、一般収蔵庫の棚に段ボール箱に入れてあった大量のヒコの本を見つけた。同じ本は町立図書館に5冊保管しているが、貸し出しはしておらず閲覧のみ。専門家からは「広く子どもたちに読んでもらえるような活用法を考えて」との助言を受けた。

同資料館の水野洋子館長は「ヒコについて大人向けの分厚い本はあるが、子ども向けは少ない。故郷の偉人について関心を高めるきっかけづくりをしたい」と話す。

NIEワークシートのこたえ（2024年3月18日公開）

◆ワークシート「『新聞の父』 ジョセフ・ヒコ(社会)」
2024.3.17付 朝刊 わがまち 24ページ 解答

- 1 A 播磨町 B 13歳 C 学校
D 大統領 E 新聞誌